

## 緒言

1995年に始まった弘岡秀明歯周病学コース、「科学に基づいた歯周治療の実践」(スカンジナビア歯周病学の日常臨床への応用)も早いもので20年を迎える。年間25名の先生方と勉強したと計算しても500名近い方と勉強を続けてきたことになる。

コースの中で紹介してきた論文も優に400編を超す。その中から臨床医が日常臨床に必要な、あるいは知っておくべきゴールドスタンダードとなる論文(いわゆるエビデンス)を、とりまとめて紹介したのが2007年に出版された「コレクテッドエビデンス vol.1、vol.2、(デンタルダイヤモンド社)」である。幸いなことに多くの先生方の支持により読み続けられてきた。

本来治療計画は積み上げられてきたエビデンスに基づいて立てられるべきである。その一方、臨床とエビデンスを結びつけながら日常治療を行う事ははなはだ難しい。今回コースの中で紹介してきた、スウェーデン デンタル センターで治療を行った臨床ケースの中から、日常臨床で遭遇するであろう5つの症例を取り上げ、エビデンスに基づいてどのように治療計画を立て治療実践したか、またその長期予後はどうであったかを紹介している。ケース毎の治療途中で遭遇する問題点を「コレクテッドエビデンス vol.1、vol.2」に照らし合わせながら解決し、治療方法を選択していく課程を特に歯周治療、インプラント治療、歯周補綴に焦

点をあてて解説している。コレクテッドエビデンスの短縮版を解説内に紹介することによって読者の便を図った。また前回紹介できなかったインプラント周囲病変への対応関連のエビデンスを追補として取り上げた。取り上げたエビデンス(論文)に興味がある読者はぜひ原本にあたってもらいたい。

歯科医療にいわゆるトップダウントリートメントは存在しない。患者はあくまで心が存在する人間であることを忘れてはならない。患者ベースの治療が施されてしかるべきである。治療方法の選択は「術者がどのような教育を受けてきたか」、「術者がどれだけどのようなエビデンスを知っているか」、「治療計画、治療の経済性(特に医療保険)」、特に忘れてはならない「術者の技術と経験」、に基づく。今日のエビデンスは次の日に否定されるかもしれない。ひとたび医療を志した者には常に最新のエビデンスを得るために、生涯勉強を続ける義務がある。

本書を少しでも日常臨床に反映して、患者の幸福につながれば著書らは幸せである。

パストツールラオス研究所所長ポール ブレイ博士宅  
プールサイドにて  
ビエンチャン、ラオス  
弘岡記